

平成30年7月豪雨災害に係る災害復旧事業の進捗状況について

〔令和2年4月17日〕
林業課
ため池・農地防災担当

1 要旨

農地・農業用施設及び林道施設の災害復旧事業の令和2年3月末時点での進捗状況について報告する。(令和元年度末 発注計画：農地・農業用施設は全体の約6割，林道施設は全体の約9割)

2 進捗状況

(単位：箇所)

施設名	査定箇所※	発注済			工事完了		
		2月末まで ①	3月 ②	3月末まで ①+②	2月末まで ①	3月 ②	3月末まで ①+②
農地・農業用施設	4,924	1,981 (40.2%)	72	2,053 (41.7%)	826 (16.8%)	153	979 (19.9%)
林道施設	315	192 (61.0%)	2	194 (61.6%)	96 (30.5%)	32	128 (40.6%)

※ 工事費40万円以上で、国庫補助事業として採択されたもの。

農地・農業用施設においては、自力復旧などの理由により445箇所の取り下げが見込まれることから(令和2年3月末現在)、今後の進捗状況については、これらの箇所を考慮する。

3 遅れの主な要因と県の取組

【測量・設計】

特に、工事の進捗の遅れが著しい市町では、コンサルタントへの発注の遅れや市町の体制が不十分であったこと等により、計画的な測量・設計成果の提出や設計書の作成等が進んでいなかった。また、設計後の農家の負担金承諾にも時間を要していた。

そのため、測量・設計成果の確認や計画変更審査を現地で行うなど、積極的な支援を行った結果、測量設計に時間を要する大規模被災区域等を除き、国の計画変更審査は年度内にほぼ完了することができた。

【工事発注】

県全体で、2,431箇所の発注に対して、378箇所(約16%)の不調・不発が発生したが、再入札や随意契約等により順次契約を進めている。

引き続き、農業者等との調整が円滑に行える、地域に精通した工事業者の確保に向け、県や市町独自の不調・不発対策や、効果的な発注方法(PM・CM, 復興JV)の具体的事例の情報提供を行うなど、積極的な働きかけを実施する。

併せて、工事発注を加速化させるため、市町に対して更なる組織体制の強化を要請していく。

4 今後の見通し

令和元年度までで、国の計画変更審査はほぼ完了したことから、令和2年度中にすべての箇所の工事着手を目指している。

一部の市町では、工事の完成が令和3年度までかかる見通しを示されているため、引き続き、市町と連携した実情に応じた対策を講じ、早期復旧に努める。

なお、新型コロナウイルスの感染による工事の進捗への影響は確認されていないものの、今後感染が拡大した場合には、完成が遅延することが考えられる。